

科目	まちづくり論	担当	高崎 義幸	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

「まちづくり」の概念や歴史などの基本的事項を理解し、まちづくりの活動に役立つ基礎的なスキル(コミュニケーション、協働作業、調査技法等)を身に付け、実際のまちづくり活動に参画できるようになることを目標とする。

【履修注意】

欠席回数が5回に達した場合、単位は認められない。観光・まちづくりコースの必修科目である。授業は講義形式と個人ならびにグループ作業を進める。作業に参加しないと単位取得は極めて困難となる。必要な知識は下記の参考文献から得ること。参考文献は読んでおくことが前提となる。就職活動による欠席は、公欠にならない。

【評価方法】

毎回配布するコメントカード(20%)、理解度確認テスト(30%)、期末試験(50%)を総合して評価する。

【試験について】

授業内容に関する筆記試験を実施する。再試験の対象は、欠席回数が5回未満で、期末試験の結果が50点以上の者のみに限る。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要。指定された課題についての予習と復習が必要である。

【教科書】

購入教科書なし。適宜資料を配布する。下記参考書の該当箇所を読んでおく。

【参考書】

松野 弘(2004)『地域社会形成の思想と論理－参加・協働・自治－』、ミネルヴァ書房
 石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ』、有斐閣ブックス
 稲葉陽二(2011)『ソーシャル・キャピタル入門－孤立から絆へー』、中公新書
 木下 勇(2007)『ワークショップ－住民主体のまちづくりへの方法論－』学芸出版社

【その他の注意事項】

授業内容と関係のない行為については、厳格に対処する。他の受講生に被害が及ぶ場合は、退出させ、履修を認めない場合がある。

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	イントロダクション	授業概要の説明、まちづくりの視点
2	まちづくりの視点	まちづくりへのアプローチ
3	まちづくりへの学問的接近	まちづくりの原則、定義
4	まちづくりへの学問的接近	まちづくりの目標、学び方、必要性
5	まちづくりの歴史的展開	中世・近世のまちづくり
6	まちづくりの歴史的展開	近代・戦後のまちづくりの展開
7	まちづくりの歴史的展開	現代のまちづくり、都市と農山村のまちづくり
8	中間まとめ	理解度確認テスト、レポート課題の提示、授業改善のための調査
9	地域開発と環境問題	地域開発の論理と実際、東海市
10	コミュニティのちから	ソーシャル・キャピタルとまちづくり
11	観光とまちづくり	観光まちづくり、観光振興、着地型観光
12	まちづくりの支援技術	ワークショップの概念、方法
13	まちづくりの支援技術	ワークショップの実践、地域資源探索とマップ化
14	まちづくりの支援技術	ワークショップの発表、評価
15	まとめ	全体のまとめと総評
16	期末試験	期末試験